

「私と国際頭痛学会」



日本頭痛学会代表理事
富永病院 脳神経内科 頭痛センター
竹島多賀夫

国際頭痛学会について

私が初めて国際頭痛学会（IHC）に参加したのは1989年Lance先生がSydneyで開催された時です。初めての国際学会で緊張して望んだことを覚えています。2年に1回開催されるIHCに1997年以降はほぼ毎回参加しています。有名な観光地での開催が多いのですが、海外の著名な頭痛研究者と気さくに話したり、日本から参加している先生がたと国内とは違った感じで接することができるのも魅力です。

写真は2007年StockholmのIHCに参加したときのもので、Charles先生、Olesen先生、坂井文彦先生、鈴木則宏先生と撮影した写真です。国際学会の空気感が伝われば幸いです。Cephalalgiaは国際頭痛学会（IHS）の公式ジャーナルですが、頭痛領域の最高峰の雑誌で目次をみているだけでも頭痛の最新情報のupdateになります。



日本頭痛学会の会員数は3400名あまりで、IHCに加盟している各国の頭痛学会のなかではかなり多いのですが、日本からIHSのメンバーになっている方はまだまだ少ないの現状です。IHS入会には様々なメリットもありますので、ぜひ、多くの日本頭痛学会会員がIHSメンバーになっていただき、国際的にご活躍いただくことを期待しています。